

市長記者会見記録

日時：2016年10月4日（火）午後2時00分～2時39分

場所：第3庁舎18階 講堂

議題：（話題提供）

- 1) 東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた英国視察について
（市民文化局）
- 2) 「川崎市役所本庁舎さよならイベント」の開催について
（総務企画局、市民文化局、川崎区役所）

<内容>

《東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた英国視察について①》

司会： ただいまより市長記者会見を始めます。本日は、市政一般となっております。

初めに、市長から2つの事案について話題提供させていただきます。1つ目の事案は、東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた英国視察について、次に、「川崎市役所本庁舎さよならイベント」の開催についてでございます。それでは、市長、よろしくお願いいたします。

市長： よろしく申し上げます。それでは、東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた英国視察について話題提供をさせていただきます。

本市は、東京大会に向けまして、「かわさきパラムーブメント」の理念に基づく、誰もが暮らしやすいまちづくりに向けた取り組みを推進しております。このパラムーブメントを推進していくに当たりましては、成熟した都市で開催されたオリンピック・パラリンピックとして大きなレガシーを残した2012年のロンドン大会は学ぶべき点が非常に多いと考えます。

また、本市は東京大会に向けた英国オリンピック代表チームの事前キャンプ受け入れについて、本年2月に英国オリンピック委員会と覚書を取り交わしており、今後、事前キャンプの受け入れを契機に英国との交流を深めていくこととしております。

このたび、東京2020オリンピック・パラリンピックに向け、本市における英国代表チームの事前キャンプの実施をより確かなものとするとともに、ロンドン大会における取り組みの実態やその手法についての知見を得るために英国を訪問いたします。

英国オリンピック委員会並びにパラリンピック委員会を訪問し、事前キャンプの受け入れに向けた協議を行うほか、英国におけるパラアスリーの活動拠点や、多様性

を尊重した文化芸術活動を展開する芸術機関などを視察し、ロンドン大会を契機とした社会環境の変化などについて各分野の関係者と意見交換を行い、かわさきパラムーブメントの推進に生かしてまいりたいと考えております。

私からは以上です。

《「川崎市役所本庁舎さよならイベント」の開催について》

司会： それでは、続きまして、川崎市役所本庁舎さよならイベントの開催についてご説明をさせていただきます。引き続きまして、市長、よろしくお願いたします。

市長： 10月14日から16日まで開催いたします「川崎市役所本庁舎さよならイベント」について話題提供させていただきます。

川崎市役所本庁舎は、11月以降、解体を行い、新本庁舎完成時に低層棟として復元する予定でございますが、解体工事に入る前に、市民の皆様に見学していただけるイベントを開催するものです。

10月14日13時に、石田議長と私からご挨拶をさせていただいて、その後、開会となります。イベント中は、見学のほかにもさまざまな催しがありますので、順にご紹介させていただきます。お手元にお配りしておりますパンフレットをお開きいただければと思います。

初めに、左上の0番の「庁舎のおそうじ」ですが、プレイイベントとして10月12日に開催するもので、お掃除ボランティアとして活動されているグリーンボードさんと一緒に庁舎を磨いたり、ほこり払いを行ったりしていただきます。掃除道具は会場に用意しておりますので、お気軽にご参加いただければと思います。

次に、1番の「庁舎内探検」でございますが、市長室や講堂など、本庁舎の内部をルートに沿って見学していただきます。楽しく見学していただくための探検シートをご用意しておりますので、探検気分で庁舎内を回っていただければと思います。

次に、2番の「本庁舎78年のあゆみ」でございますけれども、本庁舎の竣工以来の歴史などをまとめた映像を、終日上映いたします。

次に、3番の「思い出の本庁舎写真展」ですが、市民の皆様から寄せられた思い出の写真のほか、本庁舎の写真を展示いたします。

次に、4番の「楽書きアート」ですが、本庁舎1階の廊下や室内の壁をキャンバスとして、川崎ものづくりブランド認定製品のキットパスで自由に落書きをしていただけるイベントです。15日のみですが、インストラクターの方とご一緒にお描きいただくこともできます。

次に、5番目の「本庁舎見学ツアー」ですが、本庁舎内の見どころを解説つきでご案内するもので、15日と16日に2回ずつ、各回先着20名様限定で行います。

次に、6番の「トークイベント」ですが、本庁舎にゆかりのある方として、昭和20年4月の川崎大空襲時に、市役所時計塔で防空監視哨員として勤務されていた星野正孝さんと、昭和34年の本庁舎4階部分増築時の設計者であり、元川崎市建築局長の原壽幸さんのお二人に、当時のエピソードや思い出などを語っていただきます。このトークイベントにあわせて、本庁舎や周辺市街地の歴史的変遷やまちの変化、さらには、新たな庁舎のデザインなど、再生後の姿についてプレゼンテーションも行わせていただきます。

次に、7番の「時計塔ツアー」ですが、本庁舎のシンボルである時計塔の内部鉄骨階段の一部を公開します。3日間で計5回、各回先着45名様限定で行います。

最後に、8番の「音楽コンサート」については、お手元のパンフレットの最終ページをごらんください。

15日は、川崎市出身で、イギリスと日本を拠点として国際的に活躍されているピアニストの小川典子さんを本庁舎の講堂にお迎えして、コンサートを行っていただきます。16日は、「かわさきジャズ2016スペシャルライブ」と銘打って、地元ジャズプレーヤーの方々に、本庁舎の講堂でライブを行っていただきます。

この「さよならイベント」は、解体の前に本庁舎の中に入っただけ最後の機会となりますので、ぜひ多くの方にご来場いただいて楽しんでいただければと考えております。

私からは以上です。

司会： ありがとうございます。

それでは、市政一般の質疑とあわせまして、質疑応答をお願いしたいと存じます。進行につきましては、幹事社様、よろしく願いいたします。

幹事社： 市政一般も含めて？

司会： はい。

《東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた英国視察について②》

幹事社： じゃ、すみません、発表の英国視察に関してなんですけど、川崎が進めるパラムーブメント、これに生かすということなんですけど、特にこの日程の中で、一番見てみたいなとか、考えているものがあれば教えてくださいということと、あとは、視察団、6名行かれるということなんですけど、あと3人の方はどういう方が行

かれるのかということと、あとは、ちょっと野暮な話ですけど、視察費というんでしょうか、渡航費というか、宿泊費も含めて、お幾らぐらいなのかという、この2点について、まず教えてください。

市長： まず、視察団のメンバーですが、私と石田議長、それから、英国との今後の交流事業の展開も見据えまして、山田国際交流協会の会長にもご同行いただくと。それから、関係職員3名になります。

山田会長におかれましては、渡航費用は含まれておりません。実費で行かれるということになっておりまして、トータル5名の、旅費は5名という形になりますが、ほかのものは6名分含まれておりますけれども、全体の視察経費は約700万円程度と見ております。

それから、どんなところを見てくるかということでもありますけれども、ロンドン大会は、ご案内のとおり、多様性ということを主軸に置いて開催され、そして、その後のレガシーづくりというものにも大変成功されたと伺っております。特に、その中でもパラリンピックというところにも非常に注目を集めて、重視したところでもありますので、そういったところのレガシーというのを見てきたいですし、それから、それにかかわったパラアスリート、それから、パラアスリートを支える関係者の皆さん、パラリンピック委員会の皆さんともいろんな意見交換をさせていただけるというふうになっておりますので、そんなところを重点的に見てまいりたいと思っております。

《科学技術振興機構「世界に誇る地域発研究開発・実証拠点推進プログラム」の拠点到キングスカイフロントが採択されたことについて》

幹事社： わかりました。

じゃ、市政一般についてなんですが、幹事から幾つか。先週、殿町のキングスカイフロントのリサーチコンプレックス、本採択ということなんですが、これについて2点ほど。

当初、県と市の足並みがそろってなかった。ちょっと危うい時期もあったと思うんですけども、いよいよ研究活動に対して国の本格支援が受けられるという形になったわけですけども、市長として、プログラムの採択を受けた同地区への期待というんでしょうか、また、今後、それに対して市がどういう役割を果たすべきかというのをどのように考えているかというのを、まずお聞かせください。

市長： まず、殿町は世界的な研究機関でありますとか、あるいは企業などの集積が順調に進んでおりますけれども、あえてそこで足りないというか、機能として必要だ

ったのは、やはり人材育成から社会実装に至るまでの一貫通貫した仕組みというものが重要である考え方から、このリサーチコンプレックス推進プログラムに採択をいただきたいということで、これまで活動してきました。

そういった意味で、今回の採択を受けて、中核機関となる慶應義塾大学さんのこれまでのご努力も大変大きかったわけでありますけれども、これからその中核機関を中心に、人材育成から社会実装に至るまでができるのは大変意義のある、地域の拠点になるなと思っております。

それから、川崎市としての役割というのは、私も採択を受ける際のプレゼンテーションでも申し上げたんですが、これから研究機関だとか企業だとか、そういうところがどんどんイノベーションを生み出す装置ができていくわけですね。それを私は森と例えて、その森がどんどん、どんどん成長していくに従って、私どもとしては営林署の機能があるのではないかと。見えないところで下草刈りをやったりとか、あるいは間伐を行ったりとか、そういった適切なマネジメントが拠点には必要だと。それは、思いきり目の前に出てくるようなものじゃないけれども、やっぱり手を入れ続けなくちゃいけないことは間違いないと思います。

ただ、ずっと国のお金がなければ、あるいは公的なお金が入り続けなければならぬというのは、ある意味、自走できていないことになりますので、これがしっかりとしたエコシステムというか、自走できるような形にしていくことが僕は大事だと思っていますので、そういった営林所というか、例えでありますけれども、そういった機能をしっかりと川崎市が果たしていく必要があるのではないかなと思っております。中核機関を中心として、私どもやそれぞれ、今回参加していただいている機関と、いいものを、自分たちの強みをどうやって生かし合うかということが大事ですので、そのマネジメントのところをしっかりとやっていきたいなと思っております。

幹事社： わかりました。エコシステム、自走というのは、自分で走るということですか。

市長： そうです。

《羽田連絡道路について》

幹事社： あと、殿町でもう1点なんですけど、羽田連絡道路なんですけど、来年夏に着工ということだと思ってるんですが、その費用負担の問題で、都と市というのはもうできたと思ってるんですけども、市のほうで県が一定程度負担するというスキームで、じゃ、何割、どのぐらいもつかというのは、まだ結論は出てないと思ってるんですけど、

これというのは、そろそろ来年度予算と考えると、決着しなきゃいけないのかなという。これ、今の調整の状況というか、また、市長として、県にどの程度、求めると言っていると、また違うのかもしれないですけども、期待していくのかということをお聞かせください。

市長： 国の和泉委員会の中で、みんなで合意したことというふうなのを、それぞれの機関がしっかりと履行していくことが大事であります。その割合というのは、どう県が負担をしていくかというのは、まさに今、調整中のところでありますので、現在進行形のところですから、追々ということだと思います。確かにおっしゃるように、来年度予算にも絡んでくることありますから、そんなに多くの時間は残されていないだろうと思っていますが、今、精力的に県との意見交換をさせていただいております。

幹事社： 県が渋っているとか、そういうのはないですか。

市長： そういうことではないと思っております。

幹事社： いつごろを決めて、じゃ、決まりましたよというのは、それ、予算で出すということですか。

市長： そういうことになろうかと思っております。

《神奈川県「スポーツ推進のための条例の基本的考え方」について》

幹事社： わかりました。

あと、先ほどの英国視察ともちょっと関連するんですが、神奈川県がラグビーワールドカップとか東京五輪に向けて、県内で、県と市町村、県民が一体になってスポーツ施策を進めようということで、県スポーツ条例、そういったものを今、パブコメを始めたらしいんですけども、それ、聞いてないですか。

市長： ちょっと私の耳に……。申しわけありません。

幹事社： そこで、ちょっと県議会でも議論になったらしいんですが、知事がこだわって、「未病」という言葉を、異論があるようなんですけども、かつて、福田市長も首長懇談会とかで「未病」という、政策的な文書とかに入れるのはどうなんだということを、たしかおっしゃっていたような気もするんですけども、そういった県と市町村が一緒にスポーツ施策を展開していこうという条例に、そういった文言を入れることについて、市長のお考えをちょっと。

市長： 県のつくられる条例について、あんまりどうなんだ、こうなんだということ言うのは控えたいと思っておりますが、そういう議論があるんだということは、この前の

報道でも承知しました。特に、今、県のつくられている条例についてどうのこうのということはございません。

《政務活動費等に関する情報開示の件について》

幹事社： わかりました。

それで、最後に1点、ごめんなさい。この会見の前の会見からこの会見まで、いろいろな不祥事というんですか、不手際とか、もろもろあったと思うんですが、1点だけ気になったのが私もあったので聞かせてほしいんですけども、議会局の庶務課で、毎日新聞さんが政務活動費の情報公開請求をしたことに対して、各会派団長、また無所属の議員に請求者名とか内容を伝えていた、漏らしていたことがあったんですけど、議会局は申しわけないということで、毎日新聞さんにもおわびをされているようなんですが、慣例でそういうことをやっているのかと思ったら、今まではそういうことはなくて、かなり異例な対応だったらしいんですけど、職員の個人情報保護というのは、とても大事なものだと思うんですけども、こういった事案について再発防止とか、議会局の問題なんですけれども、個人情報保護に対する考え方というのは、職員の方としてしっかり持っていただきたいなというのは市民としてはあると思います。市長のこの件に対するお考えとか、また、どういうふうに、職員教育じゃないですけども、再発防止とかに努めていくかというのを聞かせてください。

市長： 個人情報の取り扱いというのは、個々のケースによってもいろいろ対応は違ってくるとは思うんですが、しかし、個人情報保護という観点から、それぞれに丁寧かつ慎重に取り扱わなくちゃいけないということは間違いありませんので、その趣旨に従って、それぞれが責任を持って執行することが大事だと思います。個別具体の話は、今回の案件については議会局なので、議会局でしっかりやっていただきたいと思いますが。

幹事社： わかりました。どうぞ。

《ノーベル賞について》

幹事社： 同じく幹事社です。今、話題になっているノーベル賞のことにしてお伺いしますが、川崎のまさに殿町のナノ医療イノベーションセンター、松村先生ですとか片岡さん、川崎にゆかりのある方も有力視されているということなんですけれども、市長の中で注目していらっしゃる方が川崎ゆかりの方でいらっしゃるのか、また、仮にノーベル賞受賞となった場合、市への効果といたしますか、影響で期待して

いる部分がもしございましたら、お願いします。

市長： 今、お名前を出していただいた片岡先生や松村先生も非常に有力な候補だと聞いていますし、ほかにも名前が挙がっている方が報道ベースでもございます。それぞれ川崎市にかかわりのある方ですので、そういった方々がノーベル賞をとられるというのは、こんなに素晴らしいことはないと思っていますので、ぜひそれを期待したいとは思いますが、これだけ多く候補者がいらっしゃるといのは、そもそもやはり川崎のポテンシャルが、そういった人材がいかにこの川崎に集まって、かかわっていただいているかというあらわれでもありますので、そういった人材が川崎のこれからのさらなる成長に貢献していただけるということは、とても期待しています。

幹事社： ありがとうございます。

幹事から以上です。

《東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた英国視察について③》

記者： 英国視察の関係で4点ほど。これ、何泊何日……。

市長： すみません。5？ ちょっと……。

司会： では、事務方から。

市長： 事務方からでよろしいですか。

オリンピック・パラリンピック推進室長： 英国視察の日程は5泊6日でございます。

記者： 出発日は18日……。

市長： 18日からですね。

オリンピック・パラリンピック推進室長： はい、18日。

記者： 午前か午後かというのわかりますか。

市長： たしか午前中だった。

オリンピック・パラリンピック推進室長： 午前の出発です。

記者： あと、この日程の中で、お会いになられる要人とか、もうお決まりでしたら、名前なんか。

市長： オリンピック委員会の委員長さんもそうですし、細かくは事務方から申し上げますか。お願いします。

オリンピック・パラリンピック推進室担当課長： 英国オリンピック委員会CEOのビル・スウィーニー氏及び英国パラリンピック委員会CEOのティム・ホリングスワース氏などがございます。

記者： 後ほど、資料をいただけますか。

市長： そうですね。後ほど資料で。

記者： あと、すみません、最後に1点なんですけれども、2月18日でしたっけ、覚書。このとき、市長は世界各国の中で一番来てほしかったのが英国チームでしたということを書いているんですけど、繰り返しになるかもしれないんですけど、この理由というのは。

市長： まさに繰り返しなんですけど、川崎が持っている多様性、今のブランドメッセージじゃありませんけど、多様性こそ可能性というものをまさに体現したのが前回の2012年のロンドンオリンピックだと思いますし、そういったところ、川崎のパラムーブメントと一番親和性のある国だと思っておりますし、今回、私は行きませんが、2日前から職員を派遣して、川崎市の姉妹都市であるシェフィールド市に訪問させていただくんですが、2020年はこのシェフィールドと友好都市になってからちょうど30周年の節目の年に当たります。ここもロンドンオリンピックの多くのレガシーを残しているところがございますので、こういったことも含めて英国との交流をしてみたいと思います。

記者： ありがとうございます。

《川崎フロンターレACL出場時の等々力陸上競技場の客席について》

記者： 川崎フロンターレの本拠地の等々力陸上競技場の問題なんですけど、ご存じのとおり、先週、残念なことに、年間勝ち点首位から落ちてしまいましたが、一応、チャンピオンズシップへの、3位以内は確定したということで、クラブから、例のアジアチャンピオンズリーグの主催するアジアサッカー連盟から、来年以降、背もたれとかそういったものを厳格化するという通達があって、クラブ側から、今調子がいいのでということもあって、市長に早期改修を求める声があって、当初はかなり難色を示されたと聞きましたけれども、ここへ来てかなり、先週の委員会などでも前向きな発言を市のほうはされているんですけど、市長としては現状ではどのように考えて、どのようなスケジュール感でやっていこうとされているのか、その辺を伺いたいと思うんですが。

市長： まず、前提として、最初は難色ということはないんですが、とにかく、やはり今後のサイド・バックスタンド2期整備のことも控えていますので、今後どうしていくかということもありますから、二重投資になってはいけないというのがございます。そういう意味で、私もフロンターレの後援会長も務めさせていただいておりますし、個人的にもという気持ちはありますけれども、しかし、これは税金で整備してい

くものですから、市民の皆さんのしっかりと理解を得る形がとても大事だと思っています。

ですから、川崎フロンターレが川崎市民の宝であることは間違いありません。そのフロンターレが活躍してくれている。で、ACLに出場して、ホームで試合ができることはこんなにうれしいことはないわけです。こんなうれしいことはないわけでありませけれども、ACLの規定が非常に厳しいので、ここはやりたいんだけど、今申し上げたような二重投資になってはいけないなという、そして、全ての市民に説明のつく形でやっていかなくちやいけないという幾つかの連立方程式みたいなものを解かなくちやいけないので非常に難しい課題だとは思っていますが、何とか努力はしたいと思っております。いい形で何とかできないかなと検討しておりますし、期限も迫ってきていると思っておりますので、近々に結論を出したいと思っております。

記者： 関連ですけれども、最終的にはサポーターを含めた団体なんかの、要するに、バックスタンド、3,600ぐらいでしたっけ、そのせめて一部でもというようなニュアンスの話もしているようですが、そのようなことも含めて検討されていくんでしょうか。

市長： 事務方でも相当な、何通りもの、どういう手法が考えられるのかということを考えてきて、それについてメリット、デメリット等々、検討していますので、その中の選択になると思うんですが、なるべく多くの関係者が納得だよという形に帰着したいと思っておりますけれども。多分、いろんな制約がある中で、全員がみんな満足ということにはならないかもしれませんが、しかし、いい形でフロンターレを応援したいという気持ちはございます。

記者： すみません、重ねてなんですけど、3,600席を全部やるとすると、試算をとって1億ぐらいかかるという話なんですけど、やっぱりそこは難しいという考え方ですか。

市長： 今、複数の中から検討しているということで、近日中に判断したいと思っております。

記者： わかりました。ありがとうございました。

《東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた英国視察について④》 《障害者施設貸付金制度予算の流用について①》

記者： すみません、2点、お伺いします。

1点目は、これ、念のための質問なんですけど、英国視察をされる際に、市の費用で

行かれる方々が利用される航空機の座席のクラスを教えてくださいというのが1点と、もうまとめて言っちゃいます。もう一つが、先日ありました市議会の健康福祉の分科会で、一部の経費が長期間にわたって、10年程度だったでしょうか、全く使われなまま放置をされて、結果的に同じようなカテゴリーのものではありますが、流用されていたと。市の規則では、流用というのは最小限にとどめなければいけないということに決まっていますし、議員さんからも、ちょっと公金の扱い方が雑ではないかというような指摘もあったかと思えます。この件に関して、市長としてどのようなお考えをお持ちなのかということと、今後どのようにされていきたいかという、この2点をお願いします。

市長： まず1点目が、飛行機ですね。これは、私と議長がビジネスで、3名の職員はエコノミーという形になっております。よろしいでしょうか。

記者： 大丈夫です。

市長： それから、いわゆる流用の件でありますけれども、委員会終了後に担当局のところから、この質疑に関しての報告を受けました。担当局のところからすると、必要な予算だったし必要な流用だったということでありますけれども、一方で、長期間にわたってということで、10億円もの額が流用されているという、この指摘は、やはり重く受けとめなければならぬし、しっかりと透明性だとか予算の妥当性だとかを検証して、改めるところはしっかりと改めるようにという形で指示をしたところでございます。

記者： ありがとうございます。

《障害者施設貸付金制度予算の流用について②》

記者： 今回のことに関連なんですけど、今年度、平成28年度の予算にも、あの貸付金は同じく3億円が計上されていて、議会では、市長ご案内のように、流用財源なんじゃないのかという指摘が出ました。もし市長が改めるようにというぐあいにご指示をなさったとするならば、平成28年度予算も何らかの措置をすべきではないかと思うんですけれども、この点についてはいかがでしょうか。

市長： 今申し上げたように、十分に検証させていただきたいと思えます。

記者： もう一つ、市の規則では、流用は全て市長決裁になっています。ということなので、市長はこれを知っていなければおかしいはずなんですけど、報告を受けて注意をしたということは、市長がどういう認識でこれにハンコを押していたというか、決裁をしていたかということが問われると思うんですけれども、この点についてはいか

がですか。

市長： それは、ハンコを押すって決裁権は私にありますので、全ての責任は私にあることは間違いありません。しかし、今申し上げたように、残念ながら、全ての細かい流用の案件まで私がチェックをしているかということは、現実的にはそうはなっておりません。ただ、繰り返しになりますけれども、その責任が私にあることは間違いありません。

記者： もう一つ。市長も議会人でいらっしゃったと思うので、議会、予算と決算の審議はものすごく慎重に力を入れてやるところだと思います。今回、議会が怒っていらっしゃるのは、3月に予算が成立した直後から流用が始まっているということだと思います。こういうことが起きると、予算審議そのものの妥当性が疑われかねないと思うので、流用は必要最小限にすべきだと思います。それは、先ほど市長もおっしゃられたとおりでと思うんですが、その上で伺いますんですが、今回の予算、2015年度までの10年間、およそ30億円の未執行分、その大半が流用されていたということを踏まえて、これは流用のための財源であったという認識であるのか、それとも、やはり必要な予算措置であって、やむを得ず流用したという認識なのか、いずれでしょうか。

市長： ある意味、両方言えるのではないかなと思います。感覚的にですね。ただ、これも私も、しっかりと精査をして検証した上でどうなのかということをしっかりお話ししなければなりませんけれども、感覚的には両方だったのではないかなという気は個人的には、細かいことの調査の前ですけれども、そういう感じはいたします。

記者： もう一つだけ、この点について。こういう予算計上の仕方、あとは流用の仕方というのは、市長としては、透明性、妥当性をとご指示なさったので、これは適切ではないという……。

市長： 好ましくないと思いますね。

記者： わかりました。

市長： 流用は、必要な部分は当然あるわけで、そのことはそのとおりでと思うんですが、先ほど指摘していただいたこと、あるいは、議会で指摘していただいたことをしっかりと受けとめて、検証して、透明性、妥当性について改めるところは改めていくということだろうと思います。

《団体連絡会議の設立について》

記者： わかりました。

もう一つ、私、事情で行けなかったんですけど、先週の金曜日に、業界団体が政策を提言していく集会を開かれて、市長も講演されたやにお伺いしたんですが、一部には、市長選の応援団なんじゃないかという見る向きもありますけれども、市長としては、ああいう業界団体の方々が積極的に政策提言をしてくださることについてはどのようにお捉えでしょうか。

市長： すごく心強いと思いますね。というのは、いろんな政策課題というのが、いつもいろんなところで言っていることですが、1つの組織で問題が解決するものが今、ほとんどなくなっている。いろんなところを掛け合わせていくとか、掛け算の発想で、いろんなところと連携してやっていくことが大事ですし、また、今、市でどんなことが起こっているのかということの課題、どんなことが課題になっているのか、問題があるのかということ共有することがすごく大事だと思っています。

例えば、この前も、ある教育関係の団体のところで挨拶をしたんですが、その団体にとっては、この予算ってとても大事だと思うんだけど、しかし、その団体がどうのこうのというのも、今、どんな時代に生きていて、どういう課題がこの地域で起こっているかということの全体像をつかんだ上で、それぞれの団体の課題解決と一緒に取り組んでいくという、そういうことがこれからの時代にとっても求められるので、そういった意味で、地域団体の横のつながり、情報を共有していくことはとても大事だと思っておりますし、それは川崎市、行政として、しっかりとそういったところとの意見交換をやっていくことは大事だと思っています。

記者： 報道によると、市長選にもう一回出てくださいというような声も会場から出ているんですが、市長、ご表明に関しては、もうしばらく後になりそうですか。

市長： そうですね。というか、そのときもびっくりしたという話をしたんですが、私に与えられた任期は4分の3消化しているところですので、約束していることをしっかりやっていくのが大事なことで、その先の話はまだまだ先の話だと僕は思っています。

記者： ありがとうございます。

《東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた英国視察について⑤》

記者： 視察の件で確認です。山田会長は、この700万円の中には全く費用が入っていないのでしょうか。

市長： これは、旅費に関しては入っておりません。要するに、飛行機代については……、ごめんなさい。旅費と宿泊費はどうでしたっけ。旅費、宿泊費が入っておりま

せん。

記者： 飛行機代と宿泊費は入っていないと。

市長： はい。例えば、移動手段だとか、あるいは通訳というものは入っている、込みということで。

記者： あと、この関係職員というのは、オリパラの推進室の職員3名ということですか。

市長： はい、そういうことです。

記者： ありがとうございます。

あと、今の記者さんの質問にも関連するんですが……。

市長： ちょっと待ってください。訂正あります？ ないです？ ごめんなさい。失礼しました。

《任期中の重点的な施策について》

記者： よろしいですか。

市長： はい。

記者： 任期あと1年というところで、力を入れていきたい施策というのがあったら教えてください。

市長： これ、引き続きの課題になっていますけれども、子育て施策のうちの一つである待機児童の課題は、これまでも増して頑張らないと、相当危機的な状況にあることは間違いないので、取り組みのとき以上にハードルは上がっていますし、相当頑張らなくちゃいけないと思っています。これは単に公約がというよりも、やはり市民生活にとってものすごく危機的に大事だと思っていますので、それもそうですし、ほかにも喫緊の課題は、もうとにかくたくさんありますので、いろんな事件、事故もいろいろ起こっていますし、やるべきことはほんとうにたくさんあります。

記者： ありがとうございます。

《東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた英国視察について⑥》

記者： すみません、先ほどの英国視察で、もう一回すみません。何度も恐縮なんですけど、これ、そもそも論なんですけど、山田さんが自費で旅費と宿泊費でしたっけ、を出すというのはご本人の考えなんですか、それとも……。

市長： これ、ご本人の考えです。

記者： ご本人がそうしたいと言っているんですか。

市長： 要は、支出することができる規定になっておりますので、こちらからお誘いしているのですが、市からもぜひご同行いただけないでしょうかとお願いしているのですが、こちらが負担しますというお話をさせていただいたんですが、山田会長におかれては、ご自身で実費で行くということで、山田会長は商工会議所の会頭も、いろんな意味で、とにかく全て、いろんなことを実費でやられている方ですので、視察の趣旨がとかそういうことではなくて、どこへ行かれるときも基本的に全部実費で行かれるという…

記者： この前、韓国に……、あっ、韓国じゃないや、中国・瀋陽でしたっけ、最近行かれたのは。

市長： はい。

記者： 山田さんも。

市長： はい。

記者： そのときも同じようなことなんですか。

市長： はい。

記者： ああ、そうなんですか。じゃ、最近というか、ほとんど……。

市長： はい。

記者： そうですか。

司会： いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、以上をもちまして終了いたします。ありがとうございました。

(以上)

この記録は、重複した言葉づかい、明らかな言い直しや質問項目などを整理したうえで掲載しています。

(お問い合わせ) 川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当

電話番号：044(200)2355